

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『2023年？』

2023年はどのような年になるのでしょうか。雑誌3冊から探ってみようと思います。ただし、暗くないもの、少しでも明るいものを選んでいこうと思います。

週刊東洋経済

・**中国と台湾**:台湾侵攻は可能性低い。第一に、中国は経済発展を優先する。22年10月の全国代表大会では、少子高齢化や所得格差といった社会課題に対処しつつ技術革新、経済構造の変革などにより「質の高い発展」をすすめる経済成長を維持して国民の生活水準を向上させることが最重要だと発表された。また、人民解放軍は、台湾への軍事作戦を成功させられるほどの準備がまだできていない。今回の党大会報告においても、軍の「勝てる能力」の向上を求めている。裏返せば現在はまだ勝てないということだ。

・**ホテル・レジャー**:国内旅行はコロナ前水準へ。2022年10月11日、全国旅行支援が開始された。また同日水際対策も大幅に緩和された。個人旅行は解禁され、一日あたり入国者数制限も撤廃された。こうして外国人旅行者は一気に増加した。また国内旅行も19年の水準を超える需要が見込まれる。

日経ビジネス

・**給電道路**:道路を走行中にEVに非接触で自動的に充電できるシステムの開発が進む。信号待ちなどで滞在時間が長い交差点の手前などにコイルを埋設し、電磁誘導で車に給電する。関西電力、ダイヘン、大林組のなどが取り組んでいる。

実用化がされれば自動車のEV化に弾みがつく。

・**空飛ぶ車**:数人乗りの電動垂直離着陸機(eVTOL)にスポットがあたっている。eVTOL機は、従来の航空機に比べて、あたかも自動車のように気軽に乗り降りできることから、空飛ぶ車と呼ばれる都市部でのエアタクシーとしての利用が想定されている。大阪府は25年ごろに定期運行を予定している。障害は多いものの、将来はタクシー料金なみまで運賃が下がる見込み。

・**飲料**:ビール市場は新型コロナウイルス禍前の水準までは戻っていないが、回復傾向にある。酒税法改正で「ビール」が減税、「新ジャンル」が増税となり、ビール回帰が始まっている。一方、飲まない人への訴求も追求している中で、健康志向が高まり、若年層の間で「適正飲酒」の考え方がひろまる中で、「ノンアル」もしくは「微アル」(アルコール分1%未満)カテゴリーをさらに強化していこう。

週刊ダイヤモンド

・**為替**:23年半ばに米利上げ打ち止め。年初はドル高が進行するが年末にかけて円高が進む。これが今回の円の対ドルレート予想の平均像だ。もっとも円高に戻っても120円台の可能性が高い。

・**メタバース**:インターネット上の仮想空間で自分の分身であるアバターを使って、さまざまなサービスを利用するメタバース。この中でコミュニケーションをバーチャル化する必要性が高まり、急速に広がった。市場は今後10年ほどかけて発展し、拡張して行くと思えるべきだ。金融、小売、運輸などの幅広い業種の大手企業によるメタバース参入も進んでいる。

さて、いかがでしたでしょうか？私が一番いいと思うのは、「台湾進攻なし」です。どんな2023年になるのでしょうかね。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

「仕事ができない人」に特有

の、3つの思い込み

表題の記事（新田龍著）をインターネットで見つけました。3つの思い込みってなんでしようね。ちょっと考えてみたくありませんか。記事は会社員が対象ですが、経営者ならどうなのかも考えてみましょう。

記事でいう思い込みは次の3つです。

(1) 「できない人」ほど、がむしゃらに頑張ろうとする

(2) 「できない人」ほど、残業でカバーしようとする

(3) 「できない人」ほど、強みや適職を探し続ける

それぞれの理由をまとめてみます。

(1) 「できない人」ほど、がむしゃらに頑張ろうとする

何を頑張っているのだろうか？会社や組織が求める方向に向いているだろうか？

経営者だと、頑張っていることは、お客さんのためになっているか、伝わっているかが大切でしょう。

(2) 「できない人」ほど、残業でカバーしようとする

残業でカバーしようとする、効率化がすすまず、いつまでも残業が発生し続ける。

経営者も同じことだ。忙しくなる一方だ。

(3) 「できない人」ほど、強みや適職を探し続ける

強みは現状の中から探すのが大切だ。それは、「あなたが特に気負うことなく、意識せずとも、普通にアッサリできてしまうこと」だ。自分では気が付いていないことが多いが、この強みを見つけ、強化することが大切だ。

「海外勢の国債売越額、22年10

兆円で最大」

1月12日の日本経済新聞です。びっくりしました。国債、ほとんど国内で購入されていると思っていたからです。こんなことを聞かれたことはありませんか？「日本は、国の借金、国債がいくら増えても、債権者は日本人だから国が借金でつぶれる心配はない」

記事は、「海外勢は22年に日本の中長期債を10兆7871億円売り越した。リーマン・ショック後に換金売りが強まった09年を超え、遡れる05年以降で最大となった」とし、「日本国債は国内勢が大半の市場とされてきたが、海外勢の売買シェアはいまや4割を超える。世界の金融引き締めが日本にも及ぶと見て売りを増やしており、金利が急変動するリスクも高まっている。」と記します。おまけに、「海外勢は相場全体の7~8割を左右する」（東海東京証券の佐野一彦氏）との見方もある。

さらに「国債のほとんどを国内勢が保有し、海外からの風雨に強いとされてきた市場構造は変化している。」ともあり、この状況が一時的なものではないと言っています。

日銀の資金循環統計によると海外勢の日本国債の保有額は22年9月末時点で170兆円に達し、海外勢の国債保有比率は14%にとどまるが、日銀が多くを保有する現在では、保険会社に次ぐ水準だ。

以上が記事の内容です。海外勢の国債売買が、国債価格、金利に影響するのです。知りませんでした。経済の基本的な指標の変動には以前から注意しておかなければならなかったのですが、ますます、目が離せなくなった気がします。